	和名(別名)	科名	備考
7	チョウセンヤマナラシ(エゾヤマナラシ)	ヤナギ科	広葉樹

幹は直立する。成長が旺盛で寿命が短く，通常，高さ15～20m太さ30～40cmで樹勢が衰える。樹皮は若いうち灰緑色で平滑，徐々に黄褐色となり下部から割れ目が入り黒ずむ。樹皮には灰褐色で菱形をした皮目が入り年々大きくなる。若枝には灰白色の軟毛が生えることが多い。冬芽は先がとがる。頂芽は側芽よりやや大きめで長さ10mm前後，三角錐状の卵形。側芽は紡錘形。葉はうすい革質で，上面（表面）が緑色，下面（裏面）が淡緑色。葉形は広卵形または扁円形で急に先がとがり，縁には波状の鋸歯がある。葉身長は7cm前後。若葉のうち下面に軟毛が生えることがある。

	和名(別名)	科名	備考
8	オニグルミ	クルミ科	広葉樹

落葉高木。北海道～九州の川沿いや窪地など、湿り気の多いところに生える。高さ7～10mになる。樹冠はまるい。樹皮は暗灰色。縦に割れ目が入る。若い枝には短毛と軟毛があり、直径約2cmと太い。長楕円形の皮目が多い。葉は互生。奇数羽状複葉で長さ40～60cm。葉柄と葉軸に褐色の軟毛や腺毛が密生し、小葉が5～9対つく。小葉は長さ8～18cm、幅3～8cmの楕円形で、ほとんど無柄。先端は短く尖り、基部はややゆがんだ切形、縁には細かい鋸歯がある。表面は無毛。裏面には星状毛が密生する。雌雄同株。葉の展開と同時に開花する。

	和名(別名)	科名	備考
9	シラカンバ(シラカバ)	カバノキ科	広葉樹

シラカンバはシラカバとも呼ばれる。シラカンバほど高原のイメージを醸し出す樹木はないかもしれない。自然らしさの象徴と思えるシラカンバであるが、実は遷移の上では先駆植物であり、森林などが破壊された後にいち早く侵入し、成長する植物である。シラカンバの林は、植生破壊があったことを示しているわけである。成長速度は速く、比較的短期間に大きく成長する。直径は40cmほどにもなるが、大きく成長したものは中心部が腐朽していることが多く、風などによって倒伏しやすい。

	和名(別名)	科名	備考
10	ハンノキ	カバノキ科	広葉樹

ハンノキは湿原や沼沢地に生育する高木であり、日本全国・朝鮮・ウスリー・満州に分布している。湿原のような過湿地において森林を形成する数少ない樹木である。樹皮は暗灰褐色で、小さく割れてはがれる。葉は長さ5～13cmで卵状長楕円形。基部はくさび型で先端も尖る。葉脈の側脈は7～9対。表面は無毛で鈍い光沢があり、裏面はほとんど無毛で、葉脈の脈腋にわずかに毛がある。花は11月から4月にかけて咲く。

	和名(別名)	科名	備考
11	ケヤマハンノキ	カバノキ科	広葉樹

ケヤマハンノキは山野，渓畔に広く生える落葉高木で，高さ20m，直径60cmに達する。樹皮はやや紫褐色を帯び，平滑，横長で灰色をした皮目が目立つ。葉は広卵形～広楕円形で鈍頭，浅い欠刻状の重鋸歯がある。基部は切形またはやや円形，長さ6～14cm，幅4～12cm。ともに花は道内では雪解け時期に葉に先だって咲き（ハンノキは暖地で11月に咲く），雄花序は枝の先端につき，開花時に長く下垂し7cmほどになる。雌花序は雄花序の直下につき，果時には毬果状になり秋に暗褐色に熟す。

	和名(別名)	科名	備考
12	ミズナラ	ブナ科	広葉樹

ミズナラはブナとともに冷温帯を代表する落葉高木。大きく成長し、樹高は30mに達する。南樺太、南千島～九州の冷温帯に分布し、ブナと混生したり、純群落を形成する。ブナよりもやや低海抜地にも生育し、やや分布域は広い。どちらかといえば、立地条件の良い場所をブナが占領し、物理的環境の厳しい場所でミズナラが優勢になる傾向がある。若枝ははじめ淡褐色の毛があるが、後に無毛。若葉は両面有毛だが、やがて裏面のみ短毛と絹毛が残る。